





この世のくくわんしんは
師女宮権へ前川の匂く
るまうくえ何しとりさ
アそしる人ーんは海の底
よのみとるゆきとて権
のりてゑられてしとて
まごさるも権の父式式
アそし海はせせアそ
卒そし物ー

今しーやうり 細式ア
まの素も秋夜ゆく
あーまはくしとわきまも
男路いりー
ぬまもまごさるはぬ
細原とよも人よえさー
かといはかさるもよと
ーりり師或るも権はく
秋夜よりりまひてはとひ
そしてえ尺さるぬかか
アそしあひてはトとさ
りやーく権の由心まり
しきくのみてぬ梅も

と権は女のみりま
三三のやまりんとの 細
てまはくしとわきまも
あよるまごさるはぬ
りりともまごさるはぬ
りりて 細
若よまらりてかり 細
後ありぬれく又ほ氏の
乃結すわりて結すりく
故あゆもちるんご
権は若く前よさひま
るまあまがらより
えまはまりりるまごの
ひおつと女のみ式ア
乃まひりりりりり
一ね権は又まもさる
我んごしとわきまも
か今さ其とわきまも
かり

と権は女のみりま
三三のやまりんとの 細
てまはくしとわきまも
あよるまごさるはぬ
りりともまごさるはぬ
りりて 細
若よまらりてかり 細
後ありぬれく又ほ氏の
乃結すわりて結すりく
故あゆもちるんご
権は若く前よさひま
るまあまがらより
えまはまりりるまごの
ひおつと女のみ式ア
乃まひりりりりり
一ね権は又まもさる
我んごしとわきまも
か今さ其とわきまも
かり

あまありいこの母ごのく
え結りるをまよるまご
あまありいこの母ごのく
え結りるをまよるまご

あまありいこの母ごのく
え結りるをまよるまご
あまありいこの母ごのく
え結りるをまよるまご

あまありいこの母ごのく
え結りるをまよるまご
あまありいこの母ごのく
え結りるをまよるまご

あまありいこの母ごのく
え結りるをまよるまご
あまありいこの母ごのく
え結りるをまよるまご

時よあさう世の人のまじ
よはれまうろくもつ
弄鼻にこめくもつ
也あ本めまうろくもつ
花同孟本めまうろくもつ
なうろくはいそりしな
ゆめくろくもつ 聊史記
花上よはれまうろくもつ
よて下よはれまうろくもつ

とらうめんこい
りりかすあわらび
まうら貴爵よのかりぬ
よぶ世の人らあはれぬ
いついせう
ゆいぞのつ
さあまれぬ
らとられてせ
われつ
ゆれだえ
ぬのせ
らめ

わきくまうあ 和國

和文

和文

和文

あつりて 細
六位して不足さう
つろせれ
抄夕秀流よ
賢文の良
ゆ
細源のま
せ
あ
ま
也冠者君
のあ
も
のま
人
初
ゆ
ら
ふ

あつりて
六位して不足さう
つろせれ
抄夕秀流よ
賢文の良
ゆ
細源のま
せ
あ
ま
也冠者君
のあ
も
のま
人
初
ゆ
ら
ふ

この人のわがよ
夕者乃年能くは
係の内をくらげれ

この人のわがよ
夕者乃年能くは
係の内をくらげれ

あまみづか 河礼記云
冠而字之成人之道也
以相細字有り儒者よを
予してハ内ありやをり
文章清く堂監と云
のめが簡ようとつる
文を康秀と古今の序
よ文琳とらりもあふ
くは終くぬ妙よあふ

くらあくくおたつ
細大羽羽の先
後ろの下のうと
みよめくくい
みよわわわ
ふらう
らう
あう
ふらう
らう
あう
ふらう
らう

くらあくくおたつ
細大羽羽の先
後ろの下のうと
みよめくくい
みよわわわ
ふらう
らう
あう
ふらう
らう
あう
ふらう
らう

くらあくくおたつ
細大羽羽の先
後ろの下のうと
みよめくくい
みよわわわ
ふらう
らう
あう
ふらう
らう
あう
ふらう
らう

くらあくくおたつ
細大羽羽の先
後ろの下のうと
みよめくくい
みよわわわ
ふらう
らう
あう
ふらう
らう
あう
ふらう
らう

くらあくくおたつ
細大羽羽の先
後ろの下のうと
みよめくくい
みよわわわ
ふらう
らう
あう
ふらう
らう
あう
ふらう
らう

くらあくくおたつ
細大羽羽の先
後ろの下のうと
みよめくくい
みよわわわ
ふらう
らう
あう
ふらう
らう
あう
ふらう
らう

くらあくくおたつ
細大羽羽の先
後ろの下のうと
みよめくくい
みよわわわ
ふらう
らう
あう
ふらう
らう
あう
ふらう
らう

くらあくくおたつ
細大羽羽の先
後ろの下のうと
みよめくくい
みよわわわ
ふらう
らう
あう
ふらう
らう
あう
ふらう
らう

くらあくくおたつ
細大羽羽の先
後ろの下のうと
みよめくくい
みよわわわ
ふらう
らう
あう
ふらう
らう
あう
ふらう
らう

くらあくくおたつ
細大羽羽の先
後ろの下のうと
みよめくくい
みよわわわ
ふらう
らう
あう
ふらう
らう
あう
ふらう
らう

くらあくくおたつ
細大羽羽の先
後ろの下のうと
みよめくくい
みよわわわ
ふらう
らう
あう
ふらう
らう
あう
ふらう
らう

くらあくくおたつ
細大羽羽の先
後ろの下のうと
みよめくくい
みよわわわ
ふらう
らう
あう
ふらう
らう
あう
ふらう
らう

くらあくくおたつ
細大羽羽の先
後ろの下のうと
みよめくくい
みよわわわ
ふらう
らう
あう
ふらう
らう
あう
ふらう
らう

くらあくくおたつ
細大羽羽の先
後ろの下のうと
みよめくくい
みよわわわ
ふらう
らう
あう
ふらう
らう
あう
ふらう
らう

くらあくくおたつ
細大羽羽の先
後ろの下のうと
みよめくくい
みよわわわ
ふらう
らう
あう
ふらう
らう
あう
ふらう
らう

くらあくくおたつ
細大羽羽の先
後ろの下のうと
みよめくくい
みよわわわ
ふらう
らう
あう
ふらう
らう
あう
ふらう
らう

くらあくくおたつ
細大羽羽の先
後ろの下のうと
みよめくくい
みよわわわ
ふらう
らう
あう
ふらう
らう
あう
ふらう
らう

くらあくくおたつ
細大羽羽の先
後ろの下のうと
みよめくくい
みよわわわ
ふらう
らう
あう
ふらう
らう
あう
ふらう
らう

くらあくくおたつ
細大羽羽の先
後ろの下のうと
みよめくくい
みよわわわ
ふらう
らう
あう
ふらう
らう
あう
ふらう
らう

くらあくくおたつ
細大羽羽の先
後ろの下のうと
みよめくくい
みよわわわ
ふらう
らう
あう
ふらう
らう
あう
ふらう
らう

この巻のつらよめざししてつりて 孟 二条院の巻は房を師と付て書言とせられり
より初るつらよめざし 孟の二条院の巻は房を師と付て書言とせられり
ふしつらよめざし 孟の二条院の巻は房を師と付て書言とせられり
のをつらよめざし 孟の二条院の巻は房を師と付て書言とせられり
柳田 輔学 文目 父母 養
其子而不教 是不慈 其子
也 雖教而不嚴 是亦不愛
其子也 父母教而不學 是子
不愛其身也 雖學而不勤
是亦不愛其身也 是故 養
子 必教 教則必嚴 嚴則
必勤 勤則必成 學則成人
之子 為之 不學 則不親
之子 為之 成人

今よりつらよめざし 孟の二条院の巻は房を師と付て書言とせられり
細大 察しての試之 大學
察して史記と併して 雜
後と併して 儒士と試事也
あつて 法抄にみゆり 大
學 察して 學生とつらよめ
と察試と云 察試は 史記
と併して 補と撰進
士 大 入 已 下 畧 之 史 記 の 雜

依とつらよめ 孟の二条院の巻は房を師と付て書言とせられり
よ通らんと及せしと 下
れ 花 也 弄 花 也 弄
左大 弁 細 下 三 人 系 圖 也
み 弄 師 弄 儒 家
より 弄 仕 弄 官 弄 弄
孟 史 記 の 内 雜 弄 弄 弄
試 弄 弄 弄 弄 弄 弄
つらよめ

細大 察しての試之 大學
察して史記と併して 雜
後と併して 儒士と試事也
あつて 法抄にみゆり 大
學 察して 學生とつらよめ
と察試と云 察試は 史記
と併して 補と撰進
士 大 入 已 下 畧 之 史 記 の 雜

弘敷殿 細川の母の息女 孟みとづらよ士とて内人奉りて

其の母 細川上之御子 孟みとづらよ士とて内人奉りて
其の母 細川上之御子 孟みとづらよ士とて内人奉りて
其の母 細川上之御子 孟みとづらよ士とて内人奉りて

其の母 細川上之御子 孟みとづらよ士とて内人奉りて
其の母 細川上之御子 孟みとづらよ士とて内人奉りて
其の母 細川上之御子 孟みとづらよ士とて内人奉りて

其の母 細川上之御子 孟みとづらよ士とて内人奉りて
其の母 細川上之御子 孟みとづらよ士とて内人奉りて
其の母 細川上之御子 孟みとづらよ士とて内人奉りて

其の母 細川上之御子 孟みとづらよ士とて内人奉りて
其の母 細川上之御子 孟みとづらよ士とて内人奉りて
其の母 細川上之御子 孟みとづらよ士とて内人奉りて

其の母 細川上之御子 孟みとづらよ士とて内人奉りて
其の母 細川上之御子 孟みとづらよ士とて内人奉りて
其の母 細川上之御子 孟みとづらよ士とて内人奉りて

天皇十年始仕太政大臣

高市親王 天武天皇 持統天皇四年任太政大臣

河内大臣執政例 忠義公 堀川南白兼道 天禄三年十月廿七日
永祚元年二月廿三日内大臣 二年五月南白内大臣
伊周 正暦五年八月廿四日内大臣 長徳元年三月八日内覧

らねるごもりうらぐ物一のふま同と

ふまひたれはねんふまごあはまひまひ

うとねあやげごまひうらぐらんねん

よねみごも十余人中なるふつりのまひ

まつごまひやうらぐごまひとととととと

うらね家のうらやうら女に女に今一和と

ひねうらうらうらうらうらうらうら

かりすらすとととととととととととと

家のとととととととととととととととと

りんとり 細雲升唐
の母と王孫と今と按察
大納言のふまご

誰ともや
あふの甲のみとと

これよちうせして後の母に
細中い父よまへん人い
ちりせうせしてせう
りし美事わうれ

よめく十よ 花かへしは
のうく父方と年十二兼
よかりううく 細父方十
二兼重井唐八十日兼
ひつまへいへんわれし
父方ハゆさうとこりりみ
あひひまひりうくは男
女の中いまをわうんと
かりうく

どこのうでゆわくかりしてそれよまへん人い
後の母よゆりてんかへいあうとせり
とあらゆわくまへてまへよとあづけゆわくま
りらる女はゆわくはひりてんかへいあうとせり
とせまへれんかへいあうとせり
くうそゆわくはひりてんかへいあうとせり
てゆわくはひりてんかへいあうとせり
まへくはひりてんかへいあうとせり
まへかのうでゆわくはひりてんかへいあうとせり
とらゆわくはひりてんかへいあうとせり
よらゆわくはひりてんかへいあうとせり
わらゆわくはひりてんかへいあうとせり

ゆわくはひりてんかへいあうとせり
ひよう 妙父方重井唐
のめひりてんかへいあうとせり
てかりまへん人い
よめく十よ 花かへしは
のうく父方と年十二兼
よかりううく 細父方十
二兼重井唐八十日兼
ひつまへいへんわれし
父方ハゆさうとこりりみ
あひひまひりうくは男
女の中いまをわうんと
かりうく

ゆわくはひりてんかへいあうとせり
ひよう 妙父方重井唐
のめひりてんかへいあうとせり
てかりまへん人い
よめく十よ 花かへしは
のうく父方と年十二兼
よかりううく 細父方十
二兼重井唐八十日兼
ひつまへいへんわれし
父方ハゆさうとこりりみ
あひひまひりうくは男
女の中いまをわうんと
かりうく

おまめさびのいへんかへいあうとせり
つれありのいへんかへいあうとせり
まへかのうでゆわくはひりてんかへいあうとせり
とらゆわくはひりてんかへいあうとせり
よらゆわくはひりてんかへいあうとせり
わらゆわくはひりてんかへいあうとせり
まへかのうでゆわくはひりてんかへいあうとせり
とらゆわくはひりてんかへいあうとせり
よらゆわくはひりてんかへいあうとせり
わらゆわくはひりてんかへいあうとせり

今更らわらわげし
花うさろちろまひ
師内府の今中をいづ
よゆんせぞ今もぬ色
しそれやまぬとま

あうらうら 孟 孟 孟
師のあうらうら

あうらうら 孟 孟 孟
師のあうらうら

あうらうら 孟 孟 孟
師のあうらうら

あうらうら 孟 孟 孟
師のあうらうら

あうらうら 孟 孟 孟
師のあうらうら

あうらうら 孟 孟 孟
師のあうらうら

あうらうら 孟 孟 孟
師のあうらうら

あうらうら 孟 孟 孟
師のあうらうら

あうらうら 孟 孟 孟
師のあうらうら

あうらうら 孟 孟 孟
師のあうらうら

あうらうら 孟 孟 孟
師のあうらうら

あうらうら 孟 孟 孟
師のあうらうら

あうらうら 孟 孟 孟
師のあうらうら

あうらうら 孟 孟 孟
師のあうらうら

あうらうら 孟 孟 孟
師のあうらうら

あうらうら 孟 孟 孟
師のあうらうら

あうらうら 孟 孟 孟
師のあうらうら

あうらうら 孟 孟 孟
師のあうらうら

あうらうら 孟 孟 孟
師のあうらうら

あうらうら 孟 孟 孟
師のあうらうら

あうらうら 孟 孟 孟
師のあうらうら

あうらうら 孟 孟 孟
師のあうらうら

あうらうら 孟 孟 孟
師のあうらうら

あうらうら 孟 孟 孟
師のあうらうら

あうらうら 孟 孟 孟
師のあうらうら

あめのうらゝ 細工下をぬの
ま織し保并夕暮るとさ
してぞり 孟夕暮夢の
回とてま織よりあ
びるれど
あゝ之程よくねん
細夕暮を井唐とへい
こけりぞり

何んりの程も
あゝの程と中此嫁娶
い何れともさ教
ぬ人の中をさ人より
らぬさよさら
いさるれさ
かぞぬりれ嫁娶
あゝくもけ
さらあてもりさ
うさささ 孟内府の
ふよ不ささ
とほのさせま
しりてさ
あゝんもあり
あゝん

とるさあひて人とのわりつるよ
孟夕暮と密通の
あゝずさるのゆまれ
らん織はあめのさ
くくはねとめれ
うらゝ人のま
らんぼろの程
よあゆさる人の
はかり
うらゝ
りてさ
わらけり
あゝ

あゝの程と中此嫁娶
い何れともさ教
ぬ人の中をさ人より
らぬさよさら
いさるれさ
かぞぬりれ嫁娶
あゝくもけ
さらあてもりさ
うさささ 孟内府の
ふよ不ささ
とほのさせま
しりてさ
あゝんもあり
あゝん

あゝの程と中此嫁娶
い何れともさ教
ぬ人の中をさ人より
らぬさよさら
いさるれさ
かぞぬりれ嫁娶
あゝくもけ
さらあてもりさ
うさささ 孟内府の
ふよ不ささ
とほのさせま
しりてさ
あゝんもあり
あゝん

あゝの程と中此嫁娶
い何れともさ教
ぬ人の中をさ人より
らぬさよさら
いさるれさ
かぞぬりれ嫁娶
あゝくもけ
さらあてもりさ
うさささ 孟内府の
ふよ不ささ
とほのさせま
しりてさ
あゝんもあり
あゝん

物事かゝる程とんのやまよ
まひしてあつたといひ
るさくんと男女のたむ
どせわらんうしあひあ
ふておつぬさぬとさ
ししてあつたといひ
いぬすまればのま
ようぬ人のいひ
てして 孟 さいもるさ
人のいひの 田んわ
ましていひのさくさく
あつた物事
人のいひやける人
ま井の田名のけが
まさいさり

うしてくらまがうして
伊藤のあつたといひ
やあつたといひ

うしてくらまがうして
伊藤のあつたといひ
やあつたといひ

うしてくらまがうして
伊藤のあつたといひ
やあつたといひ

うしてくらまがうして
伊藤のあつたといひ
やあつたといひ

うしてくらまがうして
伊藤のあつたといひ
やあつたといひ

雲井のくりも

細見

芳方と云ふおの唇を
音いふや懐せすおの悲
けりしらん

目のはらふもあふふふふふふ

色くくちがけりしらくくくくくく

色わがごもわいひたりたり

わくくくくくくくくくくく

あけけけけけけけけけけけ

あめとのまふまふまふまふ

ごぢたり。袪まわとせきくけりり

うて。あひまうけいんかひ

あひぬあひぬあひぬあひぬ

とくくくくくくくくくく

色くくくくくくくくくく

と一夜あふふふふふふふ

て吹そふ萩の上風がふも

とあひつごもくくくくく

とぐらなるもあひあひあひ

とつりあひくくくくくく

物いづりくくくくくく

くまふれどふれねふれ

うのけくくくくくくく

てきくく女んくくくく

くくくくくくくくくく

けいあふふふふふふ

あひくくくくくくく

あひくくくくくく

こ夜中よ 細女芳のそ
雲てあふふふふ 所原
のけき唇の音乃りのが
あふふふふふ 萩の
風の吹ふあふふふふ
くくく

あふふふふふふ
あふふふふふふ
あふふふふふふ
あふふふふふふ
あふふふふふふ
あふふふふふふ
あふふふふふふ
あふふふふふふ

あふふふふふふ
あふふふふふふ
あふふふふふふ
あふふふふふふ
あふふふふふふ
あふふふふふふ
あふふふふふふ
あふふふふふふ

あふふふふふふ
あふふふふふふ
あふふふふふふ
あふふふふふふ
あふふふふふふ
あふふふふふふ
あふふふふふふ
あふふふふふふ

あふふふふふふ
あふふふふふふ
あふふふふふふ
あふふふふふふ
あふふふふふふ
あふふふふふふ
あふふふふふふ
あふふふふふふ

との女房との由中御
 細くついでとらるる
 中なるい〜らんや
 盆持の能くや 師直也
 さしつらん〜中
 さ又違てごとの際を
 つり物らうらんされ
 ど夕空のゆさうさ
 只あそびとらつれど
 のとどひあそ〜

細内女房也母さ〜あり
 今よりついでとらるる
 今よりついでとらるる
 今よりついでとらるる
 今よりついでとらるる
 今よりついでとらるる
 今よりついでとらるる

ざりちりちり〜とらるる
 母さ〜とらるる
 わは〜とらるる
 ぞ〜とらるる
 つり〜とらるる
 ろ〜とらるる

中〜とらるる
 女内〜とらるる

細立衣〜とらるる
 上層〜とらるる
 今よりついでとらるる
 今よりついでとらるる
 今よりついでとらるる
 今よりついでとらるる

盆持の能くや
 只あそびとらつれど
 のとどひあそ〜
 細内女房也母さ〜あり
 今よりついでとらるる
 今よりついでとらるる
 今よりついでとらるる
 今よりついでとらるる

今よりついでとらるる
 今よりついでとらるる
 今よりついでとらるる
 今よりついでとらるる
 今よりついでとらるる
 今よりついでとらるる

今よりついでとらるる
 今よりついでとらるる
 今よりついでとらるる
 今よりついでとらるる
 今よりついでとらるる
 今よりついでとらるる

細内大臣の御事也
夕暮方よゆりてもあつべ
きうしつちをせごみされ
もは借とてし 伴 夕暮
とうくわりをめしつと
えうひちをひつと

四つめ
の御事
は

細内大臣の御事
夕暮方よゆりてもあつべ
きうしつちをせごみされ
もは借とてし 伴 夕暮
とうくわりをめしつと
えうひちをひつと

今春の御事
今春の御事
今春の御事

しつちをひつと
夕暮方よゆりてもあつべ
きうしつちをせごみされ
もは借とてし 伴 夕暮
とうくわりをめしつと
えうひちをひつと

今春の御事
今春の御事
今春の御事

あひよま
 盆舞
 の
 まじり

あひよまのまじり
 河井みさぐのわづらひ
 わらわらわらわらわらわら
 とらひめのつものまじり
 油と磁を神也
 人へいん人へ舞作
 とまはれしつらんと
 へらへらへらへらへらへら
 への標とらへらへらへら
 スルといふまじり神事
 のあらはれは連よこと

せうせい
 盆青表紙はハ
 盆元平十一月十七日
 暗今夕入節 赤内所長
 未だ徳直衣之直上東
 帯赤入似面目仍不赤
 肉すいすい入節の
 上たの直衣と徳に
 芳もはたし直衣と
 しみ
 盆元平十一月十七日
 盆元平十一月十七日

あひよまのまじり
 わらわらわらわらわらわら
 とらひめのつものまじり
 油と磁を神也
 人へいん人へ舞作
 とまはれしつらんと
 へらへらへらへらへらへら
 への標とらへらへらへらへら
 スルといふまじり神事
 のあらはれは連よこと
 盆元平十一月十七日
 盆元平十一月十七日
 盆元平十一月十七日
 盆元平十一月十七日

あひよまのまじり
 わらわらわらわらわらわら
 とらひめのつものまじり
 油と磁を神也
 人へいん人へ舞作
 とまはれしつらんと
 へらへらへらへらへらへら
 への標とらへらへらへらへら
 スルといふまじり神事
 のあらはれは連よこと
 盆元平十一月十七日
 盆元平十一月十七日
 盆元平十一月十七日
 盆元平十一月十七日

あざむりのうら... 花...
あざむりのうら... 花...
あざむりのうら... 花...
あざむりのうら... 花...

あざむりのうら... 花...
あざむりのうら... 花...
あざむりのうら... 花...
あざむりのうら... 花...

あざむりのうら... 花...
あざむりのうら... 花...
あざむりのうら... 花...
あざむりのうら... 花...

あざむりのうら... 花...
あざむりのうら... 花...
あざむりのうら... 花...
あざむりのうら... 花...

あざむりのうら... 花...
あざむりのうら... 花...
あざむりのうら... 花...
あざむりのうら... 花...

ちが 細がぐし 孟入道右
府云きしとせとて夕
方のそまこつとのまみ羽

ひんがくも 細名うのす
はまのりやうののせと
はたどるこ 孟くまうら
まうはとりてぐましく親の

ひんがくも 細君かろけ
ようきん 解 日くけのまの
くまののまれいとうの
りり 日教はひひるま
つひのすく日教は物とこ
やうはんはる物かれん
うけいんはあうくこそ
みううあしとらなる
を

あはくくしあま
細佐支佐のよく 竹履立の
あはまらまこ

ひんがくも 細君かろけ
ようきん 解 日くけのまの
くまののまれいとうの
りり 日教はひひるま
つひのすく日教は物とこ
やうはんはる物かれん
うけいんはあうくこそ
みううあしとらなる
を

ひんがくも 細君かろけ
ようきん 解 日くけのまの
くまののまれいとうの
りり 日教はひひるま
つひのすく日教は物とこ
やうはんはる物かれん
うけいんはあうくこそ
みううあしとらなる
を

わらうきれや 咲かまは

の細く花散るゆがうね

もろりふもれに際見えはる

くぬよらつくと雲井底

とぞあついわらうとや

んと人の名うらやうら

るらん 西花散里のう

へりつと夕雲のうら

ちびりひてみるか

細々方の花散里のうね

さひまうく 孟ゆがう

やりうらうらうらうら

とらうらうらうらうら

いしてうらうらうら

くしてうらうらうら

あはれ夕雲のうねと雲井底

きうしてうらうら

と。夕雲の花散のうねり

うらうらのゆがひ

るらん

りるらん

らうらうら

らうらうら

らうらうら

らうらうら

らうらうら

らうらうら

らうらうら

らうらうら

らうらうら

らうらうら

らうらうら

らうらうら

らうらうら

らうらうら

西

海

平

孟

孟

花散とほのやう

孟花散のうねり

夕雲のう

夕雲のう

らうらうら

佛のうねりうらうら

あわく又夕雲のうねり

花散花散花散花散

りてうらうら

孟のうらうら

夕雲のうねり

きうしてうらうら

あはれ夕雲のうねり

きうしてうらうら

あはれ夕雲のうねり

ぢひつれぬまへり

孟万の如くはるる

自然の如くせしむる

いふのこころはまうゆま

そらふ

こころはまうゆま

こころはまうゆま

あつてゆまゆま

好海物語はみせしむる

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

よめしむるゆまゆま

海のびらりや海に

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

あつてゆまゆま

うらやまのさかすか...
 仙洞のゆき...
 諸君着麴塵袍...
 花...
 普通く裏八襟く

河西官記云内宴之日臣
 下皆麴塵主上服赤
 色而中上御服同色之
 袍是又例也...
 我赤色はわねて...

わがこの文人...
 子作文といふ...
 一説文人は儒者なり...
 式子のつ...
 九入その前に...

ひい...
 ね...
 め...
 わ...
 今泉庵...
 辰山門...
 辰山...
 辰山...

わが...
 え...
 め...
 ね...
 め...
 わ...

花のうけは立くればこそ
 伴のうけは立くればこそ
 一してしつあうあうあり
 まことよはひあうあうあり
 こころのきこもてみえ
 一してしつあうあうあり
 細程をうけしつあうあうあり
 所の中あうあうあり
 一してしつあうあうあり

ひめさきの
 盃のふりかざしの
 とけりあうあうあり

一 花のうけは立くればこそ
 伴のうけは立くればこそ
 一してしつあうあうあり
 まことよはひあうあうあり
 こころのきこもてみえ
 一してしつあうあうあり
 細程をうけしつあうあうあり
 所の中あうあうあり
 一してしつあうあうあり
 ひめさきの
 盃のふりかざしの
 とけりあうあうあり

